

# 第70回 明の成立

## 1 元の崩壊と明の成立



本当の朱元璋  
貧農出身の乞食坊主  
から身を起し、皇帝  
にまで登りつめた。  
人間とは思えないよう  
な顔をしていたらし  
い。

- ・14世紀半ば以降、世界的な天候不順や内紛、また君主がチベット仏教（ラマ教）にはまったことにより、元は極度の財政難におちいった。  
→（ ）を乱発したため、経済は大混乱となった。
- ・1351年、弥勒仏の下生信仰を説く（ ）が大反乱を起こした。  
※この農民反乱を（ ）という。  
→紅巾軍の兵士（ ）が、1368年、（ ）を建国した。  
→元は中国を捨ててモンゴル高原に撤退し、（ ）として存続した。

### ☆明（1368～1644年）

都…（ ）（金陵、応天府）

◆朱元璋（ ）在位 1368～1398年）

- ・長江下流域の穀倉地帯をおさえ、中国を統一した。  
※なお明は、江南に建国して中国を統一した唯一の王朝である。
- ・洪武帝の時代以降、（ ）がはじまった。



朱元璋の墓  
南京には、朱元璋の墓  
が残っているが、地下  
宮殿がまだ未発掘であ  
り謎が多い。近くには孫  
権の墓もある。

### <明の統治制度>

- ・朱元璋（洪武帝）は、皇帝権力の強化をめざした。  
→（ ）し、行政機関の（ ）を皇帝の直属とした。
- ・また軍事機関の五軍都督府や、監察機関の都察院も皇帝の直属とした。
- ・朱子学を官学として、科挙制度も整備した。
- ・唐にならい、（ ）・（ ）という法律を制定した。
- ・土地台帳である（ ）と、戸籍や租税台帳である（ ）  
をつくり、それに基づいて税金を徴収した。
- ・農民を（ ）として管理し、（ ）という連帯責任制度を作った。  
→さらに（ ）という教訓を出し、民衆を従順にしようとした。  
※（ ）と呼ばれる年長者が、責任者として秩序の維持に努めた。
- ・兵制では、（ ）という兵士を出す家から  
兵士を集める（ ）を始めた。



美化された朱元璋

朱元璋には、いくつ  
かの肖像画が残され  
ている。実際の顔に  
近いのは、プリントの  
上にある肖像画だろ  
う。独裁者にはよくあ  
ることである。



紅巾の乱(中国ドラマ「大明帝国」より)

紅巾の乱は、左の写真  
のように、反乱軍が紅  
の頭巾をかぶっていた  
ことに由来する。黄巾  
の乱と区別すること。  
このドラマは、朱元璋役  
がかつこすぎて不満。



魚鱗図冊

魚鱗図冊には、土地  
の面積とそれに応じ  
た税額、さらに所有  
者の名前が記入され  
ている。  
魚の鱗に似ているた  
め、こう呼ばれた。



建文帝  
死んだとも南方に逃げたとも言われる。

## 2 靖難の役と永楽帝の時代

◆ ( ) (在位 1398~1402 年)

- 皇帝の力をさらに強めるため、各地の王をつぶそうとした。  
→1399 年、北平を本拠地とする ( ) の朱棣が反乱を起こした。  
※この事件を ( ) といい、建文帝は行方不明となった。

◆ ( ) (在位 1402~1424 年)

- 1402 年、靖難の役が終結し、燕王の朱棣が永楽帝として即位した。  
→都を金陵 (南京) から、自らの本拠地である ( ) に遷した。
- 皇帝の補佐として、( ) をおいた。  
※事実上かつての宰相と同じ役割であった。

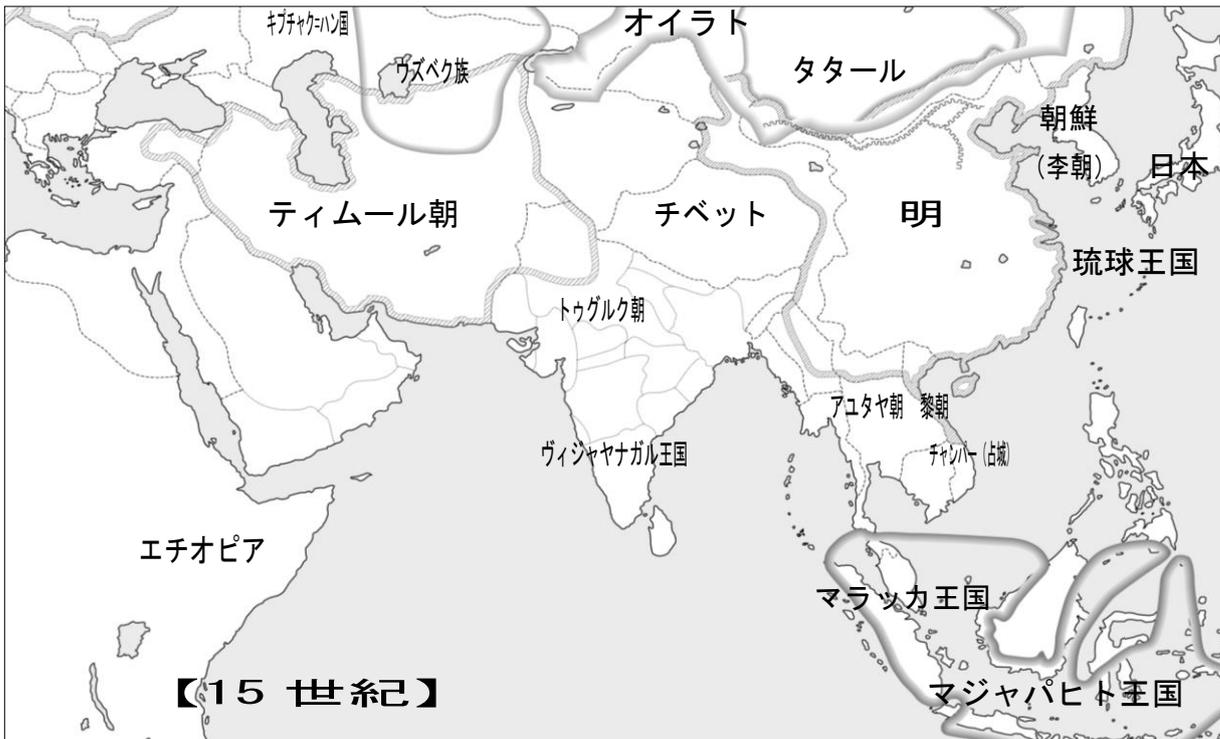


永楽帝  
朱元璋 (洪武帝) の四男である。宦官を積極的に用いて、権力を握った。勘合貿易も永楽帝の時代に始まった。

- 儒学者からの批判をそらす目的もあり、大百科辞典である『  
を編纂させた。
- 朱子学が官学だったため、『  
』・『  
』・『性理大全』  
など儒教の注釈書も編纂させた。

### <永楽帝の外征>

- ( ) やベトナムなどに対して積極的な遠征を行った。  
→ベトナムの ( ) には撃退されたが、後に和平して朝貢国となった。
- イスラーム教徒の宦官 ( ) に命じて、7 度の南海諸国遠征を行わせた。  
→東南アジア、インド、アラビア半島、アフリカにまで達し、インド洋に面した多くの国が明に朝貢するようになった。



鄭和  
雲南出身。アフリカ東海岸のマリンディまで行った。部下はメッカにも巡礼している。



捕まえたキリン  
アフリカではキリンを捕まえて、中国まで連れて帰った。